

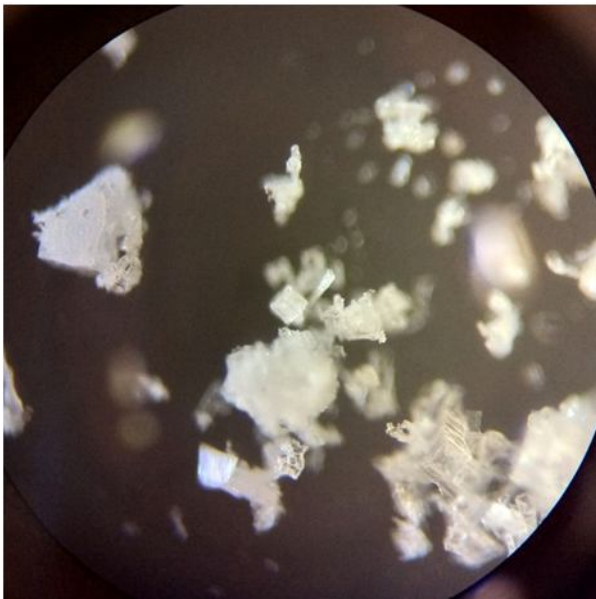
## 「再結晶の撮影に挑む (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

特別なアダプターなしで、iPad を使って、顕微鏡写真を撮る技術を獲得した子どもたちは、更に安定した撮影方法を開発していった。

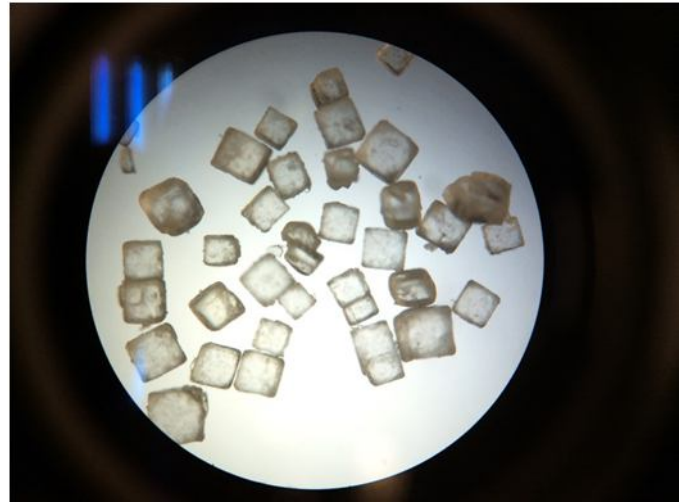


要は iPad のレンズと、接眼レンズの間に、一定の間隙があればいいわけである。この写真のように、接眼レンズの上部に手のひらでリングを作り、そこに iPad のレンズを当てれば、安定した視野で撮影ができる。写真でもわかる通り、リングを作る者、フレーミングを決める者、シャッターを押す者と分担している。

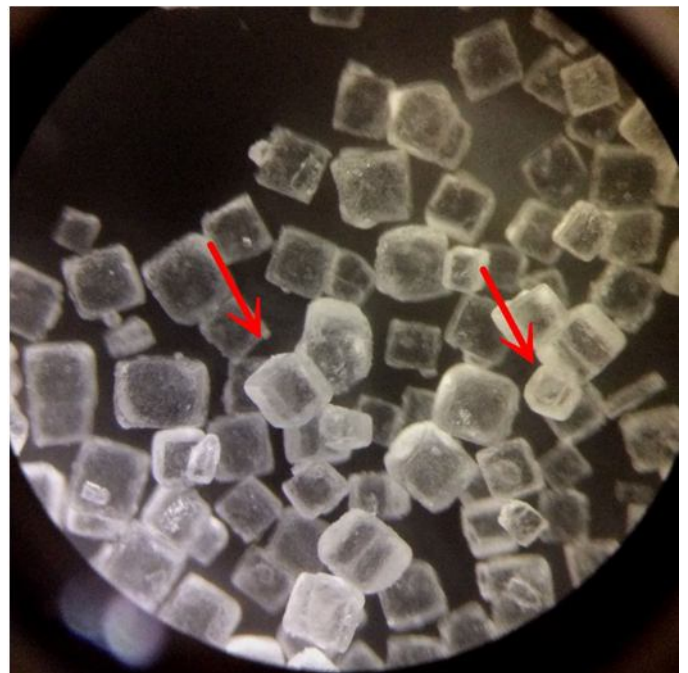


これがこの方法で、子どもが撮影した写真である。雑多な形状だが、中央に立方体の結晶が見える。ここで大切なことは、「溶解前の食塩の結晶」と「再結晶後の食塩の結晶」が同じ構造(形)をしていることを

確かめる・・・ということである。その為に、撮影の練習や技術向上も兼ねて、溶解前の食塩の結晶の顕微鏡写真も撮影させてみることにした。一見単純と思えたこの活動が、実に創造的で面白かった。



最初はこんな写真しか撮れなかった。塩化ナトリウムの結晶は、基本的に立方体なので、スライドの上に乗せると、6面のうちの1面しか見えず、「立方体」ではなく「正方形」に見える。しかし偶然、結晶同士が重なっていると、斜め45°の角度から見える結晶が写ることがある。これを探せば良いわけだ。



「先生、すごいのが撮れた！見て見て！」私は「ワーワーオ」と言った。面白いことになってきた。